TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　724語

Why the Crocodile has a Wide Mouth

どうしてワニの口は大きいの？

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：April6090

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　水の女神が「だれもきずつけない」と約束した川で、王さまのむすこがおよいでいると……。ワニはだまったままで？

"Come to my kingdom whenever you will," said the goddess of the water to the king of the land. "My waves will be calm, and my animals will be gentle. They will be as good to your children as if they were my own. Nothing in all my kingdom will do you harm."

The goddess went back to her home in the sea, and the king walked to the shore of the river and stood gazing upon the beautiful water. Beside him walked his youngest son.

"Father," asked the boy, "would the goddess be angry if I went into the water to swim?"

"No," answered the father. "She says that nothing in all her wide kingdom will do us harm. The water-animals will be kind, and the waves will be calm."

The boy went into the water. He could swim as easily as a fish, and he went from shore to shore, sometimes talking with the fishes, sometimes getting a bright piece of stone to carry to his father. Suddenly something caught him by the foot and dragged him down, down, through the deep, dark water. "Oh, father!" he cried, but his father had gone away from the shore, and the strange creature, whatever it was, dragged the boy down to the very bottom of the river.

The river was full of sorrow for what the creature had done, and it lifted the boy gently and bore him to the feet of the goddess. His eyes were closed and his face was white, for he was dead. Great tears came from the eyes of the goddess when she looked at him. "I did not think any of my animals would do such a cruel

thing," she said. "His father shall never know it, for the boy shall not remember what has happened."

Then she laid her warm hand upon his head, and whispered some words of magic into his ear. "Open your eyes," she called, and soon they were wide open. "You went in to swim," said the goddess. "Did the water please you?"

"Yes, surely."

"Were the water-animals kind to you?"

"Yes, surely," answered the boy, for the magic words had kept him from remembering anything about the strange creature that had dragged him to the bottom of the river.

The boy went home to his father, and as soon as he was out of sight, the goddess called to the water-animals, "Come one, come all, come little, come great."

"It is the voice of the goddess," said the water-animals, and they all began to swim toward her as fast as they could.

When they were together before her, she said, "One of you has been cruel and wicked. One of you has dragged to the bottom of the river the son of my friend, the king of the land, but I have carried him safely to shore, and now he is in his home. When he comes again, will you watch over him wherever in the wide, wide water he may wish to go?"

"Yes!" "Yes!" "Yes!" cried the water-animals.

"Water," asked the goddess, "will you be calm and still when the son of my friend is my guest?"

"Gladly," answered the water.

Suddenly the goddess caught sight of the crocodile hiding behind the other animals. "Will you be kind to the boy and keep harm away from him?" she asked.



"THE MOUTH THAT WILL NOT OPEN MUST BE MADE TO OPEN"

Now it was the crocodile that had dragged the boy to the bottom of the river. He wished to say, "Yes," but he did not dare to open his mouth for fear of saying, "I did it, I did it," so he said not a word. The goddess cried, "Did you drag the king's son to the bottom of the river?" Still the crocodile dared not open his mouth for fear of saying, "I did it, I did it." Then the goddess was angry. She drew her long sword, and saying, "The mouth that will not open when it should must be made to open," she struck the crocodile's mouth with the sword. "Oh, look!" cried the other animals. The crocodile's mouth had opened; there was no question about that, for it had split open so far that he was afraid he should never be able to keep it closed.

「いつでも好きなときに、わたしの国へいらっしゃい」と、水の女神が陸の王さまに言いました。「わたしの波はおだやかで、わたしの動物たちはおとなしくしています。あなたの子どもたちにも、わたしの子どものようにやさしくするでしょう。わたしの国のものは、何ひとつあなたをきずつけません。」

女神は海の家へ帰り、王さまは川の岸へ歩いていって、美しい水をじっとながめていました。王さまのそばには、いちばん下のむすこが歩いていました。

「お父さん」と男の子はたずねました。「ぼくが水に入っておよいだら、女神さまはおこるかな？」

「いいや」とお父さんは答えました。「女神さまは、ひろい国のものは何ひとつわたしたちをきずつけないとおっしゃった。水の動物たちはやさしくて、波はおだやかだよ。」

男の子は水に入りました。男の子は魚のようにすいすいおよげたので、岸から岸へとおよぎまわり、魚たちとおしゃべりしたり、お父さんに見せようと、きれいな石をひろったりしました。とつぜん、何かが男の子の足をつかんで、深いくらい水の中へ、下へ下へとひきずりこみました。「お父さん！」と男の子はさけびましたが、お父さんはもう岸からはなれていました。そして、そのふしぎな生き物は、何だかわかりませんが、男の子を川のいちばん底までひきずりこんでしまいました。

川はその生き物のしたことをとてもかなしんで、男の子をそっとだきあげ、女神の足もとまで運びました。男の子の目はとじていて、顔はまっ白でした。いのちがなくなっていたのです。女神は男の子を見ると、大つぶのなみだをこぼしました。「わたしの動物が、こんなひどいことをするとは思わなかった」と女神は言いました。「お父さんには、けっしてこのことを知らせません。この子には、何があったのかわすれさせましょう。」

そして女神は、あたたかい手を男の子の頭にのせ、耳もとで魔法の言葉をささやきました。「目をあけなさい」と女神がよぶと、まもなく男の子はぱっちりと目をあけました。「あなたはおよぎに来たのですね」と女神は言いました。「水は気に入りましたか？」

「はい、とても。」

「水の動物たちはやさしくしてくれましたか？」

「はい、とても」と男の子は答えました。魔法の言葉のおかげで、川の底へひきずりこんだふしぎな生き物のことは、何もおぼえていなかったのです。

男の子はお父さんのところへ帰っていきました。男の子のすがたが見えなくなるとすぐに、女神は水の動物たちによびかけました。「みんなおいで、小さいものも、大きいものも、おいで。」

「女神さまの声だ」と水の動物たちは言って、みんなできるだけ早く女神のほうへおよいでいきました。

みんなが女神の前に集まると、女神は言いました。「あなたたちの中に、ひどい悪いことをしたものがいます。だれかが、わたしの友だちである陸の王さまのむすこを、川の底へひきずりこんだのです。でも、わたしがぶじに岸まで運んだので、今はもう家に帰っています。こんどあの子が来たら、ひろいひろい水の中のどこへ行きたがっても、まもってくれますか？」

「はい！」「はい！」「はい！」と水の動物たちはさけびました。

「水よ」と女神はたずねました。「友だちのむすこがわたしのお客さまのときは、おだやかにしずかにしていてくれますか？」

「よろこんで」と水は答えました。

とつぜん、女神は、ほかの動物たちのうしろにかくれているワニに気がつきました。「あなたは、あの子にやさしくして、きけんから守ってくれますか？」と女神はたずねました。

「開かない口は、開かせなければならない」

じつは、男の子を川の底へひきずりこんだのは、このワニだったのです。ワニは「はい」と言いたかったのですが、口をあけたら「ぼくがやった、ぼくがやった」と言ってしまいそうでこわくて、口をあけられず、ひとことも言いませんでした。女神はさけびました。「王さまのむすこを川の底へひきずりこんだのは、あなたですか？」それでもワニは、「ぼくがやった、ぼくがやった」と言ってしまうのがこわくて、口をあけられませんでした。そこで女神はおこりました。女神は長い剣をぬくと、「あけるべきときにあかない口は、あけさせなければなりません」と言って、剣でワニの口をうちました。「あっ、見て！」とほかの動物たちはさけびました。ワニの口はひらいていました。それはまちがいありません。口があまりに大きくさけてしまったので、ワニは、もう二度と口をとじていられないのではないかと心配になったほどでした。

たんご と クイズ　どうしてワニのロは大きいの？

crocodile ワニ	mouth ロ	river 川
fish 魚	sword 剣	swim およぐ
goddess 女神		

Q1 男の子を川の底へひきずりこんだのはだれ？

① 大きな魚　② ヘビ　③ ワニ

Q2 ワニがロをあけなかったのはどうして？

① 「ぼくがやった」と言ってしまいそうだったから　② ねむかったから　③ 歯がいたかったから

Q3 女神は剣でワニのどこをうった？

① しっぽ　② ロ　③ せなか

こたえ

Q1 ③ 男の子を川の底へひきずりこんだのは、ほかの動物のうしろにかくれていたワニでした。

Q2 ① ロをあけたら「ぼくがやった、ぼくがやった」と言ってしまいそうで、こわかったのです。

Q3 ② 女神は剣でワニのロをうちました。それでロが大きくさけて、とじられないほどになったのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：April6090（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。